

# 日本家庭医療学会会報

第59号

発行日 2007年6月1日

ホームページ: <http://jafm.org/> E-mail: [jafm@a-youme.jp](mailto:jafm@a-youme.jp)

## 第2回 若手家庭医のための家庭医療学冬期セミナー報告

日 程  
2007年2月10日(土)~2月11日(日)

会 場  
トーコーシティホテル梅田(大阪市北区)

### 【プログラム】

1日目(2月10日)

開会講演

講演1.

「家庭医との出会い、家庭医になるための出会い」

藤原靖士 氏

講演2.

「家庭医が親になるということ」 守屋文香 氏



2007年2月10、11日、大阪のトーコーシティホテル梅田にて『第2回若手家庭医のための家庭医療学冬期セミナー』が開催されました。若手家庭医部会主催では2回目のセミナーで、総勢100名の参加者、講師が集まりました。その模様を紹介します。

1日目

開会前

昨年は東京で行われたこのセミナー。今年は大阪での開催となり、参加者枠は100名と倍増しました。手作りのセミナーであり、受付は若手家庭医部会の生涯学習プロジェクトの皆さん。もちろん参加者と同じ若手家庭医であり、参加者でもあります。順調に受付は終了し、開会時には会場のほとんどの椅子がうまっていました。



### この号の主な内容

|  |   |                                     |    |
|--|---|-------------------------------------|----|
| 第2回 若手家庭医のための家庭医療学冬期セミナー報告               | 1 | 第22回 日本家庭医療学会 学術集会・総会               | 11 |
| 日本家庭医療学会 理事会 議事録                         | 6 | 平成18年度 日本家庭医療学会 研究補助金 選考結果のお知らせ     | 29 |
| 第5回 家庭医療後期研修プログラム認定と<br>指導医養成のためのワークショップ | 8 | 平成19年度 日本家庭医療学会認定 後期研修プログラムの本認定について | 29 |
| 医学生・研修医のための 第19回 家庭医療学夏期セミナー             | 9 | リレー連載 診療所研修「学ぶ環境の大切さ」               | 30 |
|  |   | 生涯教育コーナー                            | 31 |

1日目つづき

必須ワークショップ

ワークショップ1.

「地域・コミュニティをケアすることをどう学ぶか」

講師 北村 大氏

山田康介氏

平野嘉信氏

指導医 山田康介氏

ワークショップ2.「たのしい家族志向のケア」

講師 田中久也氏

佐古篤謙氏

吉本 尚氏

斉藤裕之氏

指導医 松下 明氏

2日目(2月11日)

選択ワークショップ

ワークショップ3.「Evidence Based Medicine」

講師 西川武彦氏

指導医 吉村 学氏

ワークショップ4.「家庭医こそが禁煙支援の推進者」

講師 佐野公彦氏

指導医 高橋裕子氏

ワークショップ5.「リハビリテーション」

講師 若林秀隆氏

ワークショップ6.「生涯学習」

講師/指導医 藤沼康樹氏

ポストセミナー企画

「これで解決! 若手の悩み」

~若手家庭医徹底討論

若手家庭医部会



開会講演1「家庭医との出会い、家庭医となるための出会い」

奈良市立月ヶ瀬診療所の藤原靖士先生に、家庭医療の研修コースがなかった時期にどうやって家庭医になろうとしたか、先生の経験に基づいてユーモアを交えてご講演いただきました。

はじめは田舎の診療所で働きたいという想いで、地域の勉強会や大学の総合診療部での研修、家庭医のための生涯学習セミナー、メーリングリストなどを通じて診療所

で役に立ちそうなことを学び、その中で家庭医や家庭医を目指す先生方との出会いがあった。診療所で目の前の患者さんのために役に立つことを追求めてきたら、気がついたら周りには家庭医というものがあった。診療所で実際に診療するようになってから、家庭医でいわれていることは診療所で役に立つことを実感しているということでした。

講演の最後に、「自己流でやってきた私よりも失敗が少なく、寄り道が少なく、よい家庭医になってほしい。お互いに交流してよりよいものを作ってほしい。ただし、家庭医だからこうしなくちゃいけないではなく、目の前の患者さんや地域のために何ができるかという姿勢を大切に。」と若手家庭医への熱いメッセージをいただきました。



開会講演2「家庭医が親になるということ」

開会講演2コマ目は題して「家庭医が親になるということ」。自称「専業主婦家庭医」の守屋文香先生に、文字どおり「親になり子どもを持つこと」で出会った様々な変化、発見、学びについて話をさせていただきました。

医師をしながら子育てや家事を両立させていくことは並大抵のことではありません。仕事に没頭することが、おのずと十分でない子育ての現実から逃避していたのだということに気づいた話は非常に印象的でした。その発見の後、本来、自分はどのようにしたかったのかということに誠実に向かい合ったことが先生自身の大きな成長につながったようです。

子育ての経験は親として、家庭医として、人として一回り大きく成長するきっかけではないでしょうか。ライフサイクルを重要視する私たち家庭医に、診療業



務と同様、自分自身のライフサイクルにも目を向けながらキャリアを考えていくことの重要性を示唆する、非常に意義深い話となりました。

#### ワークショップ1「楽しい家族志向のケア」

若手冬期セミナーのWSでは2つの必須WSがありましたが、その一つが奈義ファミリークリニックの先生方と岡山SP研究会の皆さんで行った「楽しい家族志向のケア」でした。

始まりから田中先生率いる「奈義劇団」の巧みなWS進行に、ロールプレイに参加して楽しんでしまいました。

ポラ ノールを模した秀逸なスライドと「奈義劇団」による家族志向を重視した外来診療風景を見ていると、私の中にも、患者とその家族と関わりたくなる気



持ちが自然と湧いてきました。いつもの外来にやってくる、最近食欲のないおじいさんや、肩こりのつよい奥さんに家族のことを改めて聞いてみたいと思いました。最後のSPさんが参加してのグループセッションでは、家族カンファレンスの中で家族の一員としての感情を体感することもできました。

しっかりと家族志向のケアの原則も盛り込んで、ライフサイクルまで配慮して、さらに笑いを取りながら楽しく学習するスタイルは、さすが松下先生のお膝元といった感じで、拾い読みしていた「家族志向のプライマリケア」を是非とも通読して、家族と関わるといこうコアを大切にしたい家庭医を目指したいと思いました。

田中先生やるなあ～。



#### ワークショップ2「地域・コミュニティをケアすることをどう学ぶか」

“地域・コミュニティをケアすること”について、“自分が普段の診療以外で行っている活動にはどのようなものがあるか？ 目的は何なのか？”という事前課題を基に進められました。

カレス アライアンス 北海道家庭医療学センターの山田先生が、北海道 更別にある診療所に赴任されてからの6年間、真っ白の状態から展開されてきた地域医療についてのプレゼンテーション。その中には、研修医が中心になって企画された“物忘れ外来”、ケアマネージャーと一緒に保険審査に参加する研修医の風景、地域のバスケットボール大会に参加している風景などが示されました。地域に積極的に参加し、地域のニーズを敏感に汲み取り、何でも実践してみる！というメッセージが伝わってくるものでした。ディスカッションも盛り上がり、それぞれの先生方が地域でどのような活動を展開しているのか知ることの良い刺激となり、地域・コミュニティのケアをどういう目的で、どのように展開していくのか、について考えを深めることができる、有意義なWSとなりました。



#### 懇親会

特別講演、ワークショップ1日目終了後、懇親会を行いました。立食形式で、自由に歓談していただきながら、講演、ワークショップの講師の先生方を中心に、一言ずついただきました。「家庭医は夜作られる！」という言葉も、講演していただいた藤原先生からいただき、おおいに夜、未来の家庭医が作り出されたことと思います。二次会は設定不足でご迷惑をおかけしました。今後の振り返りの課題としたいと思います。不手際があったにも関わらず、その後もおおいに盛り上がり、みなさんのご協力もあり、大変、交流することができました。



## 2日目

### ワークショップ3 EBM「腰痛炒めエビ風味」

「腰痛炒めエビ風味」と一見風変わりなWS3は腰痛の診断をテーマにEBMを総合的に学びました。いかにおいしく作るかを追求し（臨床での疑問）、素材を集め（情報検索）、調理した結果（ワークシートの作成）、食べてみて（シートの活用）、それをレシピに残す（ワークシート）ことがこのWSの真髄です。

私たちは普段の診療の中で診断を行うために問診、身体所見、検査など様々な手段を用いていますが、診断をつめていく上でそれらが持つ所見の意味はまさに「さまざま」です。実際にある所見についての検査前確立、検査後確立をこれまでの経験から感覚的に設定し、ノモグラムを用いて尤度比を求めました。InfoPOEMsなどの2次データベースから得られる実際の尤度比と照らし合わせると、意外に大きくずれていたり、「そこそこいい感覚」であったりとEvidenceに照らして日々の診療を振り返ることができました。Red flag signを除外しながら診断をつめたり、腰痛の患者を相手にロールプレイを行ったりと会場は実際の診療現場さながらです。練習問題や「急性腰痛アルゴリズム」まで準備されていて、まさに実践に活かせる技能が身についたWSでした！



### ワークショップ4「家庭医こそが禁煙支援の推進者」

今回のワークショップでは昨年4月から保険適用された禁煙の治療や支援方法を学び明日からの診療に直接役立つノウハウを身につけることができました。参加者は既に禁煙外来を行っている先生から1年目研修医までさまざまでしたが、それぞれに役立つ内容が盛り込まれていました。



屋外で喫煙しても受動喫煙のリスクになり（同居する子供の尿中のニコチン濃度2倍）、地域で1年間禁煙すると心筋梗塞の発生率が有意に低下したなど、喫煙による影響の大きさを改めて認識することができました。禁煙支援をするためには、患者の生活背景や家族関係などを理解した上で、それぞれの患者にあった治療をすすめる必要があります、家庭医の重要な役割のひとつであることがわかりました。

禁煙マラソンなどさまざまなツールを活用して、患者だけでなくその家族も巻き込んで禁煙支援を行うとともに、自動販売機の撤去やタバコ代の値上げなど子どもがタバコを入手しにくい環境にすることや、喫煙防止教育や地域を挙げての喫煙防止の取り組みにも家庭医として積極的に関わると必要があると思いました。

### ワークショップ5「リハビリテーション」

日々の外来・訪問診療に「リハビリテーション」の考え方をうまく取り入れたいと考えて、このWSを受講しました。

「リハビリテーション」や「障害」という言葉の意味を改めて知り、ICIDH（国際障害分類）やICF（国際生活機能分類）によって患者さんの状態を評価し今後のプランをマネジメントしていくことが重要であることを学びました。グループディスカッションで



は、シナリオの患者さんを自分自身に当てはめて皆で話し合うことによって、現実味をおびた有意義で楽しいWSになりました。また、時折出てきた、ドラッカー氏の言葉から日々の学習態度についても学ぶ機会を得て、大変勉強になりました。

WSを受講しただけでは自己満足に終わってしまうので、今後学んだことを実践して日々の診療に是非役立てていきたいと思っています。

### ワークショップ6「生涯学習」

家庭医として地域で診療をしていくときに不安になるのは、自分の医療の質を保つために、幅広い診療分野をどうやって学び続けるかということ。このヒントをもらえたらと思って、生涯学習のワークショップに参加しました。

家庭医の特異性、複雑性、不確実性を特徴にした仕事のなかでは、実践のなかで反省しながら育つReflective Practitionerになることが重要だということを学び



ました。そのReflectionを言葉に直すことを、いつも難しいと思っていたのですが、参加者同士のグループディスカッションが非常に参考になりました。また模擬カンファレンスを行うなかでの、指導医のフィードバックが診療の質、自己学習スタイルのステップアップにつながる内容になり、一学習者としても、カンファレンスを開く側としても生涯にわたって使える実践的な内容となっていました。

おわりに

第2回冬期セミナーは1泊2日、約100名もの参加者を集め、各講演、ワークショップは充実したものとなり、前回以上に盛り上がっていました。他の参加者との交流も深めることができ、一人の参加者としても、とても充実した時間を過ごすことができました。今後もぜひこうした取り組みを続けて、若手家庭医の横のつながりを強くしていきたいと思いました。



ポストセミナー企画「これで解決！ 若手の悩み」

セミナー日程終了後、希望者の参加でポストセミナー企画が行われました。若手家庭医が直面する悩みについて、6つのグループに分かれ、具体的に「誰が」「いつまでに」「何をする」という方策を立てることを目標にディスカッションしました。テーマには「診療の質」「生涯学習」「後期研修後の進路」「後進指導・教育」「家庭医の社会への認知・家庭医のアイデンティティ」「研究」があり、それぞれに熱い議論が交わされました。最終的に作られた方策を実行するため、現在若手家庭医部会のプロジェクト化が検討されています。

文責：日本家庭医療学会 若手家庭医部会Web担当



# 日本家庭医療学会 理事会 議事録

日 時：平成19年2月11日（日）8:00～11:00

会 場：トーコーシティホテル梅田 2階「蘭」

出席者：代表理事 山田隆司

副代表理事 竹村洋典、（以下は、委任状による出席）葛西龍樹

理 事 雨森正記、岡田唯男、亀谷 学、西村真紀、伴信太郎、藤沼康樹、  
松下 明、森 敬良、山本和利、

（以下は、委任状による出席）

生坂政臣、大西弘高、草場鉄周、小林裕幸、白浜雅司、三瀬順一

監 事 津田 司、藤崎和彦

オブザーバー 山田康介（草場鉄周代理）

## 1. 会員数報告，新入会員承認，会費未納退会者 （山田、以下敬称略）

山田代表理事より、1月31日現在の会員動向について報告があり、承認された。

会員数：1,371名（うち、医師会員1,218名）

入会者： 46名（2006年11月1日～2007年1月31日）

退会者： 1名（2006年11月1日～2007年1月31日）

未納者： 88名（H15まで納入済）

会費未納率：38.3%（2007年1月31日現在）

## 2. 平成18年度収支決算中間報告

山田代表理事より、平成18年度収支決算中間報告があった。次年度繰越額は、予算通り800万円相当の予定であることが述べられた。

執行部より、事業の拡大にともなう事務量および事務諸経費の増加等に対応するため、年会費を値上げすることが提案された。審議された結果、理事会案として正会員の年会費を1万円とすることを次回の総会で諮ることとなった。また、プログラム認定の施設ごとの認定料についても今後検討したい旨が述べられた。

## 3. 常設委員会報告

編集委員会《会誌『家庭医療』》

藤沼委員長より、4月に発行を予定していることが述べられた。また、会員以外への販売について今後検討したい旨が述べられた。

広報委員会《会報，Webサイト，市民向けホームページ》

松下委員長より、会報は予定どおり年4回発行している旨が報告された。また、ホームページを含めた一般市民へのアピール企画について、意見交換が行われた。

研究委員会《学会賞，課題研究，研究初学者のためのワークショップ》

山本委員長より、次回の学術集会時に学会賞の審査を行うこと、研究初学者のためのワークショップの会場を国立がんセンターに移して行うことなどが報告された。研究補助金事業については、2件しか応募がないため、締切を2月末に延長することが提案され、承認された。

生涯教育委員会《生涯教育ワークショップ，書籍等出版》

伴委員長より、生涯教育委員会の活動について説明および報告があった。

・次年度の生涯教育ワークショップは、雨森先生を中心として2007年11月10日、11日に大阪で行われることが述べられた。ワークショップの準備委員会（企画、協力者）として、委員のほか5名の先生が関わっていることも報告された。

・今後の活動として、生涯教育ワークショップの地域での実施（生涯教育ワークショップの人気プログラムを主催、共催のいずれかで）、会報へのCMEのリソース提供、学会メーリングリストへの貢献、出版活動などについて委員相互で提案および検討されていることが述べられた。

・内山富士男先生が編集された『家庭医・プライマリケア入門』（プリメド社）の改訂について、引き続き内山先生に編集代表をお願いし、家庭医療学会編で進めることが提案され、承認された。

倫理委員会《申請研究に対する結果》

事務局より前回理事会後から申請がなかったことが報告された。

若手家庭医部会《若手家庭医のための家庭医療学冬期セミナー、キャッチフレーズ募集、ロゴマーク募集》  
森理事より、第2回冬期セミナー、キャッチフレーズ、ロゴマーク等について報告があった。

キャッチフレーズは、理事会で最終決定を行うことになっており、検討した結果、投票数1位の「困った

ら 一家の主治医 家庭医へ」に決定した。

ロゴマークについては、2つの案について現在投票を行っており、2月末の締切後に若手家庭医部会で決定することが述べられた。

次年度の冬期セミナーは開催地を含め、今後も若手家庭医部会で継続して検討されることが述べられた。

#### 学生研修医部会

竹村副代表理事より、小林理事から提出された資料に基づいて夏期セミナーの進捗状況が報告され、補助金を80万円とすること、ポスターセッションの会場費を請求することが承認された。また、meet the expertへの理事の参加依頼について通知された。

#### 4. ワーキンググループについて

##### 患者教育パンフレット作成WG

松下理事より、患者教育用パンフレットについて、今後10名程度のコアメンバーで構成した後、3月中にある程度の枠組みを作って4月から実際の作業を進めていく予定であることが述べられた。また、各専門科の先生（約300名）にパンフレットの内容について確認をしていただくことを予定しており、その謝礼として事業計画書に30万円の予算を計上したことが述べられた。

#### 5. 第22回（平成19年）学術集会について

山田代表理事より、白浜大会長から提出された資料に基づいて第22回（平成19年）学術集会の進捗状況が報告された。亀谷理事より、筆頭での発表は1人1演題に限定したことについて、今後の発展を考え、将来的には広げたほうが良いとの提案があった。

津田監事より、ランチョンセミナーについて各日とも2社ずつの協賛で、COPDと自殺予防のテーマで進めていることが報告された。

#### 6. 第23回（平成20年）学術集会について

山田代表理事より、第23回（平成20年）学術集会の大会長として、葛西副代表理事より立候補があったことが報告され、承認された。また、第24回（平成21年）学術集会は3学会合同となるため、今後3学会で協議する必要があることが述べられた。

7. 平成18年度 日本家庭医療学会 研究補助金について（生涯教育委員会《生涯教育ワークショップ、書籍等出版》を参照）

8. 外部ホームページから学会ホームページへのリンクについて

竹村副代表理事より、外部ホームページからのリン

クの依頼があった際は特に検閲や承認を求めることなくリンクしていただくことについて、前回理事会の内容でも特に意見がなかったためこの方向で対応することが述べられた。

##### 後期研修（プログラム認定）委員会

##### 後期研修（FD）委員会

山田代表理事より、後期研修プログラムの仮認定について、現在、37のプログラムが仮認定されたことが報告された。

山田代表理事より、学会認定後期研修プログラム Ver.1に記載された用語解釈の基準や、後期プログラム認定に関わる次年度の作業の進め方などについて問題提起がされ、意見交換が行われた。その結果、3月10日に臨時理事会を開催し、同事項について継続審議されることとなり、臨時理事会までの間は理事用MLでも継続して意見交換が行われることとなった。

平成19年度後期研修プログラム申請書類の締切日を延長する予定であることが報告された。

9. 各委員会の役割について（ジョブディスクリプション）（別表および各委員会報告の項を参照）

10. 平成19年度事業計画および予算について  
各申請の内容にて承認された。

11. 後期研修プログラムの申請について（平成18年度仮認定、平成19年度本認定）

12. 後期研修プログラム認定と指導医養成のためのワークショップについて（山田）

13. 学会認定指導医について（認定について）（山田）  
（後期研修（プログラム認定）委員会、後期研修（FD）委員会の項を参照）

14. プライマリ・ケア教育連絡協議会への学会としての参加について  
（時間の関係で審議に至らず）

15. 冬期セミナーについて（若手家庭医部会）

16. キャッチフレーズについて（若手家庭医部会）  
（若手家庭医部会の項を参照）

17. 再研修制度について  
（時間の関係で審議に至らず）

18. その他

特定非営利活動法人 日本家庭医療学会 主催

## 第5回 家庭医療後期研修プログラム認定と 指導医養成のためのワークショップ

期日：平成19年6月9日（土）～10日（日）

9日 13:00～18:00 / 10日 8:30～12:00

場所：都道府県会館 402号

東京都千代田区平河町2-6-3

（地下鉄 有楽町線・半蔵門線・南北線「永田町駅」

地下鉄 丸の内線・銀座線 [赤坂見附駅]）

<http://www.tkai.jp/info/info.html#02>

開催  
しまし  
た

対象者：現在家庭医療後期研修プログラムを運営している指導者、または将来立ち上げを計画して  
いる指導者（学会員に限る\*）

\* 非学会員の方は当日入会手続きをしていただけます。

代理参加も可。但し代理の場合も会員であることが条件です。

家庭医療後期研修プログラムのこれまでの状況を存じない方は、学会認定後期研修プ  
ログラム（バージョン1.0）をダウンロードしてご持参ください。

参加費：10,000円（懇親会費込み）

懇親会不参加の場合は 5,000円

### 《内 容》

6月9日（土）

1. 開会挨拶（山田代表理事）
2. 自己紹介とアイスブレイキング（司会：竹村副代表理事）
3. プログラム本認定について（確認など）（竹村副代表理事）
4. レクチャー1

「少子高齢社会に適した家庭医療とは - 日本家庭医療学会の歴史を顧みながら - 」

講師：津田 司 先生

5. レクチャー2

「家庭医研修の目標 - 教育的な視点から - 」

講師：亀谷 学 先生

6. 参加者全体での議論
7. 懇親会（軽食での情報交換会）

6月10日（日）

1. 後期研修のための指導医養成  
岡田 唯男先生
2. 閉会挨拶（山田代表理事）





## 医学生・研修医のための第19回 家庭医療学夏期セミナー

日 時 : 2007年8月4日(土) ~ 6日(月) 2泊3日

場 所 : セミナー会場・宿泊 クリアビューホテル

〒 278-0012 千葉県野田市瀬戸548 TEL : 04-7138-2121

テーマ : 『患者さんと歩む医療』

定 員 : 200名

参加費 : 学生 会員20,000円 非会員23,000円

医師 会員28,000円 非会員32,000円

参加費には食費、宿泊費、懇親会費が含まれています。

対 象 : 医学生(全学年)並びに研修医(原則5年目まで)

定 員 : 200名

申込方法 : (申込締切 7月6日)

1. 申し込み受付サイトを開き、インターネット予約の「参加登録」のページから必要事項を入力・送信してください。

申し込み受付サイト <https://apollon.nta.co.jp/familymed/per1/jouhou.pl?&mode=top>

\* その際、必ずアンケートの記入をお願いいたします。

2. インターネット予約の「お支払い」のページからお支払方法を選択・入金を行ってください。お支払方法は (1) 銀行振込 (2) クレジットカード決済のオンライン決済 (3) クレジットカード情報をFAXして後日引き落とし の3つからお選びいただけます。

銀行振込の場合

ご請求金額を下記口座までお振り込み下さい。送金手数料はお客様のご負担でお願い申し上げます。

お振込先 : みずほコーポレート銀行 十五号支店

普通口座 3101942

口座名 株式会社 日本旅行 記入例 : カ) ニホンリョコウ

3. 入金確認をもって申し込み成立となります。ご登録後に発信される確認メールにお支払い期日の記載がございます。期日までにお支払いの手続きをお済ませくださいますようお願い申し上げます。

キャンセルについて

申し込み受付サイトを開き、インターネット予約の「予約確認・変更」のページからキャンセルを行ってください。申し込み受付サイトにてお申込みをされた段階で仮受付となるため、ご入金がない場合でも取消し日によっては取消料が発生いたします。ご注意ください。

問合せ先：

申し込み・宿泊関連の問い合わせ

株式会社 日本旅行 イベント・コンベンション営業部

MCSセンター 「第19回医学生・研修医のための家庭医療学夏期セミナー」デスク

〒104-0061 東京都中央区銀座7-13-10 日本興亜銀座ビル5階

TEL: 03-5565-9890 FAX: 03-5565-9611

e-mail : mcs\_center@nta.co.jp

担当 : 境田、張(チャン)

営業時間 平日 09:30～17:30(土・日・祝日は休業)

セミナー内容・その他の問い合わせ

e-mail : family\_med07@yahoo.co.jp

内 容：

詳細については、日本家庭医療学会学生・研修医部会のページをご覧ください

URL <http://family-s.umin.ac.jp/>

1日目(4日)

講演会

「日本の家庭医、その将来は?!」

竹村 洋典 先生

三重大学医学部附属病院総合診療部/大学院医学系研究科 家庭医療学

「家庭医を目指して走り続けた10年間」

草場 鉄周 先生

医療法人 社団 カレス アライアンス 北海道家庭医療学センター所長

本輪西サテライトクリニック所長

懇親会

2日目(5日)

セッション(選択性)

低学年から高学年、研修医まで楽しめる15のセッションを準備しています。家庭医に必要な基本的臨床技能から、毎日の外来で役立つ応用的な臨床技能まで盛りだくさんです。

プレセッション

全国で行われている勉強会・サークルの紹介

ポスターセッション

全国の研修プログラムの紹介

懇親会

3日目(6日)

セッション(選択性)

2日間のセミナーで生じた疑問や不安を経験豊かな講師の先生と同じ志を持つ仲間と解消しましょう。家庭医を目指す参加者の皆さんに、未来展望を広げる6のセッションを準備しています。



## 第22回 日本家庭医療学会 学術集会・総会

会 期：2007年6月23日(土)～24日(日)

会 場：損保会館 (JR御茶ノ水駅 聖橋口)  
〒101-0063 東京都千代田区神田淡路町2丁目9  
TEL. 03-3255-1299 FAX. 03-3255-1504

東京・お茶の水 ホテル聚楽  
コンベンションホール 白鳥  
〒101-0063 東京都千代田区神田淡路町2-9  
TEL. 03-3251-7222 FAX. 03-3251-7447

大会長：白浜 雅司 (佐賀市立国民健康保険三瀬診療所)

テーマ：家庭医のやりがい

参加費：(23日夜レセプションを含みます)

- ・会員事前登録 8,000円
- ・一般参加、当日参加会員 10,000円
- ・学生(大学院生を除く) 2,000円
- ・会員家族 2,000円

事務局：第22回日本家庭医療学会学術集会事務局

(日本家庭医療学会 常設事務局内)

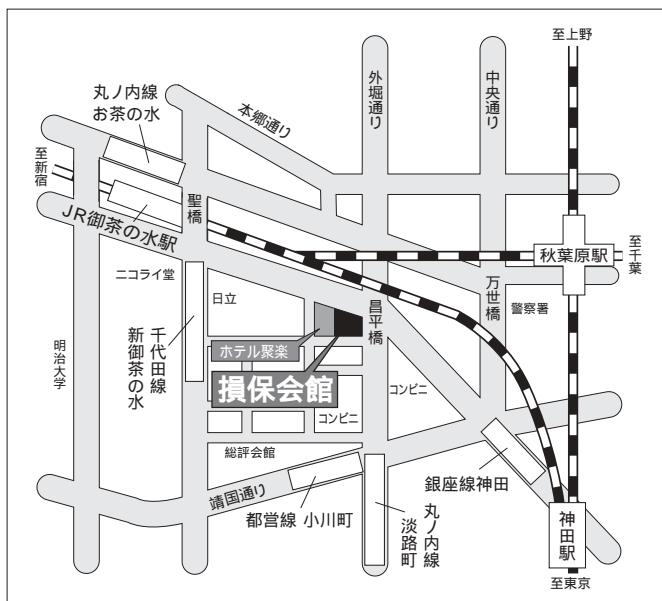
〒550-0003

大阪市西区京町堀1-12-14-507 あゆみコーポレーション内

TEL. 06-6449-7760 FAX. 06-6447-0900 (共用)

E-mail : jafm2007@a-youme.jp

学術集会ホームページ : <http://a-youme.jp/jafm2007/>



### 交通アクセス

- ・ JR「御茶ノ水」駅 聖橋口 徒歩5分
- ・ JR「秋葉原」駅 電気街口 徒歩5分
- ・ JR「神田」駅 北口 徒歩10分
- ・ 東京メトロ 千代田線「新御茶ノ水」駅  
B2出口 徒歩3分
- ・ 東京メトロ 丸の内線「淡路町」駅  
A5出口 徒歩3分
- ・ 東京メトロ 銀座線「神田」駅  
6番出口 徒歩8分
- ・ 都営 新宿線「小川町」駅  
A5出口 徒歩3分



## 大会長あいさつ

日本家庭医療学会学術集会へようこそ。今回の学会は、私のような地域のひとり診療所医師が大会長をお引き受けしたため、会場選定から多くの不安がありました。会員の皆様と学会事務局、その他多くの関係者のご協力で何とか無事開催できますことを感謝しています。

家庭医の重要性が高まっているこの時期、改めて今回の学会企画の目標を提示します。

1. 家庭医をめざそうとしている若い先生方、また色々な困難の中で家庭医としてがんばっている先生方に、家庭医のやりがい、面白さをきちんと伝えられる学会。
2. 自分達だけで家庭医の理想を追い求めるだけでなく、日本の家庭医に望むことについて、一般市民、医療スタッフ、行政担当者、連携する専門医の声を聞き、それらの声にきちんと応えられるような家庭医を目指す学会。
3. 家庭医の様々な働きや技術を学ぶ場を提供すること。その学びが、翌日からの日常診療に活用でき、最終的に自分、自分の患者さんや診療スタッフに役立つ学会。
4. 家庭医として直面している問題を、仲間とともに考える学会。またそのようなことを相談できる仲間、ロールモデルに出会える学会。

これらの目標にしたがい、学会のテーマを「家庭医のやりがい」とし、1日目には、様々な家庭医のロールモデルといえる学会員の先生方による「家庭医のやりがい」のシンポジウム、2日目に、東京大学大学院教育学研究科の佐藤学先生による教育講演「家庭医のプロフェッショナルリズム」、最後に様々な立場のシンポジストの意見を聞く「家庭医に望むこと」というシンポジウムを企画しました。

また今回の学会の特徴は、一般演題だけでなく、WSなども全て公募したことです。結果的にナイトセッション、インタレストグループなど全部で40を超えるセッションが用意されました。解決の難しい事例を参加者と一緒に考える事例検討というポスターセッションも作ってみました。

ひとつ心配なことは、すでに事前登録が300を超える勢いで、会議室は多い会場ですが、廊下が狭いため、WSなどのセッション後の移動に手間取る可能性があります。ぜひ皆さんで時間厳守と早めの移動、席をつめて座っていただくなど、ご協力をお願いします。学会に参加された皆さんに、多くの学びと良き出会いがあることを心から願っています。

2007年5月

第22回日本家庭医療学会学術集会大会長

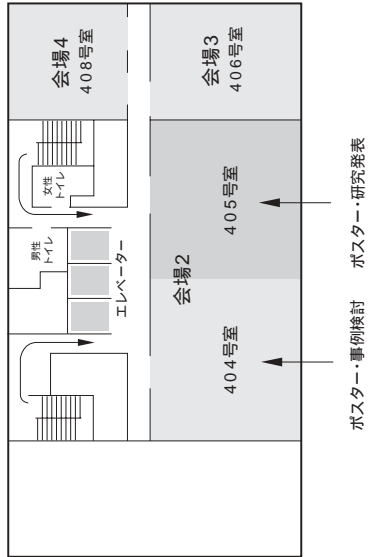
佐賀市立国民健康保険三瀬診療所 白浜 雅司



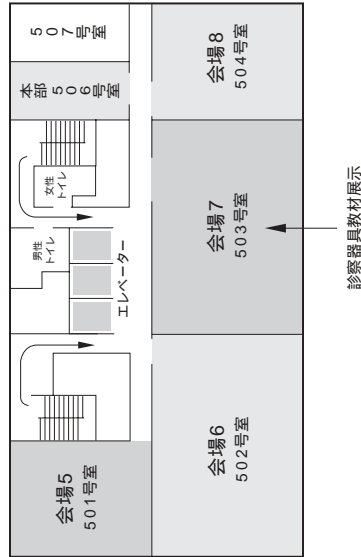
## 会場のご案内

各階への移動は3つのエレベーターと2つの階段を御利用下さい。

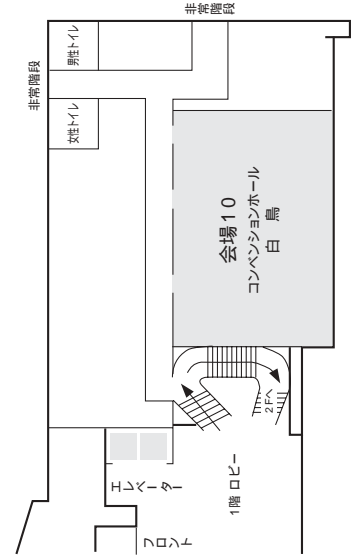
4階



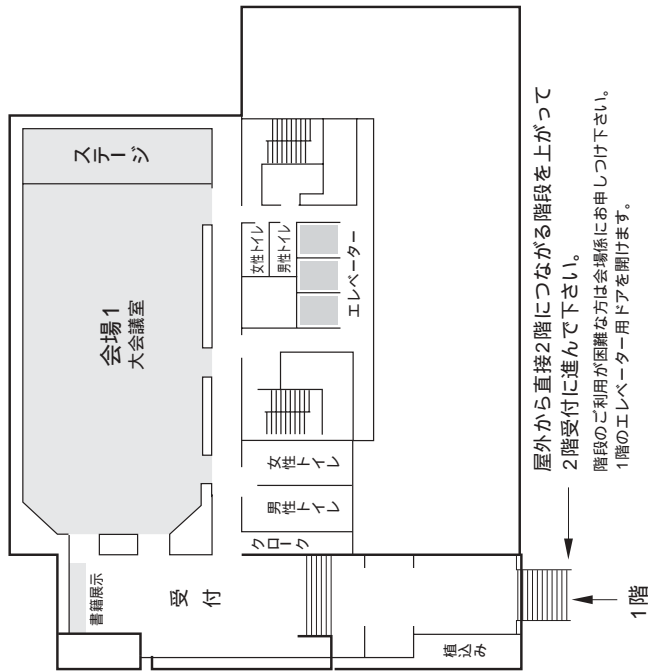
5階



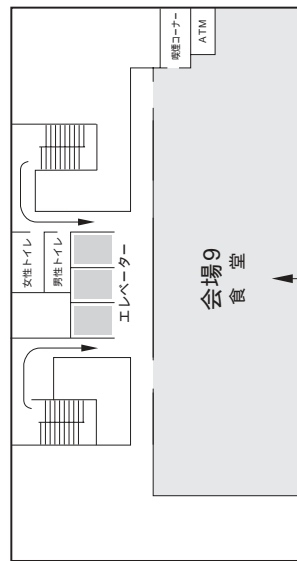
ホテル聚楽 中2階



2階



3階



- 会長講演、教育講演、シンポジウム 中継会場
- ポスター掲示(施設紹介、田坂メモリアル)
- レセプション兼ポスターセッション会場(23日 18:00 - 19:00)
- インタレストグループ朝食配布場所(24日 8:10 - 9:00)
- ランチョンセミナー以外の昼食会場、休憩場



1日目(6月23日/土)

|             | 会場 1   | 会場 2  |   | 会場 3   | 会場 4   |
|-------------|--|---|---|--|--|
|             | 大会議室   | 404号室   | 405号室   | 406号室  | 408号室  |
| 8:00        |  |   |   |  |  |
| 9:00        | 9:00-11:00<br>W-03<br>家庭医だからこそ出来る!<br>楽しい禁煙支援  | 9:00-11:00<br>W-06<br>家庭医とスポーツ医学  | 9:00-11:00<br>W-07<br>ベッドサイドの<br>嚥下障害の診かた、<br>関わりかた | 9:00-11:30<br>W-09<br>根拠に基づいた<br>予防医療:<br>現在の健診・人間<br>ドックの問題点と<br>変革のための方略 | 9:00-11:30<br>W-08<br>心肺蘇生に関する<br>事前指示<br>(DNAR order)<br>について |
| 10:00       |  |   |   |  |  |
| 11:00       |  | ポスター掲示<br>(事例検討)  | ポスター掲示<br>(研究発表)                                    |  |  |
| 11:30-12:00 | 昼食   |   |   |  |  |
| 12:00       | 12:00-12:50<br>ランチョンセミナー   | 12:00-12:50 ランチョンセミナー<br>「プライマリケアにおけるうつ病治療と自殺予防」<br>演者: 大山 博史, 坂下 智恵<br>司会: 伴 信太郎 |   | 12:00-12:45<br>シンポジウム1<br>打ち合わせ  | 11:45-12:45<br>倫理委員会   |
| 13:00       | 13:00-14:30<br>一般演題<br>教育研修(前半)<br>座長: 森 敬良, 岡田 唯男   | 13:00-14:30<br>一般演題<br>研究<br>座長: 葛西 龍樹, 生坂 政臣                                     |   |  |  |
| 14:00       | 教育研修(後半)<br>座長: 大西 弘, 亀谷 学   |   |   |  |  |
| 15:00       | 14:40-15:10<br>開会あいさつ、会長講演   | 14:40-15:10<br>開会あいさつ、<br>会長講演「三瀬村で学んだこと」<br>演者: 白浜 雅司<br>司会: 山田 隆司               |   |  |  |
| 16:00       | 15:10-17:10 シンポジウム1<br>家庭医のやりがい<br>座長: 藤沼 康樹, 竹村 洋典<br>シンポジスト: 内山富士雄<br>生坂 政臣<br>西村 真紀<br>草場 鉄周<br>大橋 博樹 | ポスター掲示<br>(事例検討)  | ポスター掲示<br>(研究発表)                                    |  |  |
| 17:00       | 17:15-17:50 総会   |   |   |  |  |
| 18:00       |  | 18:00-19:00<br>ポスターセッション<br>(事例検討)  | 18:00-19:00<br>ポスターセッション<br>(研究発表)                  |  |  |
| 19:00       | 19:00-20:30<br>N-02<br>家庭医は本当に役立つのか<br>~医療経済学の視点から~  |   |   | 19:00-20:30<br>N-06<br>診療所での教育の工夫<br>こうしてみたらよかった!                          | 19:00-20:30<br>N-05<br>医師の配偶者・家族<br>のためのワークショップ                |
| 20:00       |  |   |   |  |  |



1日目(6月23日/土)

| 会場 5<br>501号室  | 会場 6<br>502号室  | 会場 7<br>503号室                           | 会場 8<br>504号室  | 会場 9<br>3F食堂  | 会場 10<br>ホテル聚楽    |       |
|--|--|---|--|---|-------------------|-------|
|  |  |   |  |   | 8:00-10:00<br>理事会 | 8:00  |
| 9:00-11:30<br>W-01<br>学会発表が「楽しく!!」<br>なるプレゼンテーション<br>のコツ         | 9:00-11:30<br>W-05<br>日常診療に<br>NLP(神経言語プロ<br>グラミング)を使おう! | 9:00-11:30<br>W-04<br>家庭医と<br>ウイメンズ・ヘルス | 9:00-11:30<br>W-02<br>家庭医である私の<br>プロフェッショナリズム<br>って何だろう?     | 9:00-18:00<br>ポスター掲示施設紹介(田坂メモリアル)<br><br>ランチョン以外の昼食会場 休憩場として使用<br><br>会長講演、シンポジウム中継 |                   | 9:00  |
|  |  |   |  |   |                   |       |
|  |  |   | 診察器具教材展示   |   |                   | 11:00 |
|  | 13:00-14:30<br>一般演題<br>在宅・へき地・地域<br>座長：三瀬 順一、雨森 正記       |   |  |   |                   | 12:00 |
|  |  |   |  |   |                   | 13:00 |
|  |  |   |  |   |                   | 14:00 |
|  |  |   |  |   |                   | 15:00 |
|  |  |   |  |   |                   | 16:00 |
|  |  |   |  |   |                   | 17:00 |
|  |  |   |  |   |                   | 18:00 |
|  |  |   |  | 18:00-19:00<br>レセプション兼<br>ポスターセッション   |                   | 18:00 |
| 19:00-20:30<br>N-01<br>診療所で担当すべき<br>診療内容<br>必要な診療能力・<br>望ましい連携とは | 19:00-20:30<br>N-04<br>シンポジウム:<br>これからの家庭医療<br>と総合診療     |   | 19:00-20:30<br>N-03<br>“使える”家族アプ<br>ローチをめざして～理論<br>モデルと今後の展開 | 18:00-19:00<br>レセプション兼ポスターセッション<br>(施設紹介、田坂メモリアル)                                   |                   | 19:00 |
|  |  |   |  |   |                   | 20:00 |



2日目(6月24日/日)

|       | 会場1   | 会場2   |   | 会場3  | 会場4  |
|-------|---|---|---|--|--|
|       | 大会議室  | 404号室   | 405号室   | 406号室  | 408号室  |
| 8:00  |   | 8:10-9:00 I-07<br>役に立つかどうか<br>わからないEBM講座                        | 8:10-9:00 I-10<br>住み慣れた家で<br>死ぬということ                | 8:10-9:00 I-02<br>「地域・コミュニティを<br>ケアする」ガイド        | 8:10-9:00 I-03<br>家庭医の進路相談                   |
| 9:00  |   |   |   |  |  |
| 10:00 | 9:10-10:40<br>W-15<br>家庭医療における高齢者<br>外来診療の理論と方法   | 9:10-10:40<br>W-12<br>プラクティカルEBM<br>～統計数学や論文<br>読解からの解放         | 9:10-10:40<br>W-16<br>発熱 コモン エマー<br>ジエンシー 感冒 or not | 9:10-10:40<br>W-19<br>家庭医の地域貢献<br>患者を診る<br>地域も診る | 9:10-10:40<br>W-17<br>家庭医療研修医を<br>上手に評価するために |
| 11:00 | 10:50-11:45<br>学会賞対象演題発表  | ポスター掲示<br>(事例検討)  | ポスター掲示<br>(研究発表)                                    |  |  |
| 12:00 | 12:00-12:50<br>ランチョンセミナー  | 12:00-12:50 昼食会場<br>ランチョンセミナー「COPDの早期発見・治療」<br>演者：福地義之助、司会：津田 司 |   | 12:00-12:45<br>教育講演・シンポジウム2<br>打ち合わせ             |  |
| 13:00 | 13:00-13:50 教育講演<br>専門家として学び育つこと<br>演者：佐藤 学<br>司会：大滝純司  | ポスター掲示<br>(事例検討)  | ポスター掲示<br>(研究発表)                                    |  |  |
| 14:00 | 14:00-16:00<br>シンポジウム2<br>家庭医に望むこと<br>座長：白浜 雅司、山田 隆司<br>シンポジスト：木原 康樹<br>宮岡 等<br>中野 博美<br>佐藤 敏信<br>辻本 好子 | 13:50-14:00<br>特別賞贈呈式   |   |  |  |
| 15:00 |   | 15:30<br>ポスター撤去   | 15:30<br>ポスター撤去                                     |  |  |
| 16:00 | 16:00-16:30   | 後期研修プログラムの認定証授与式、<br>学会賞発表表彰、閉会の挨拶                              |   |  |  |
| 17:00 |   |   |   |  |  |

|                    |           |             |             |
|--------------------|-----------|-------------|-------------|
| 理事会                | 6 / 23(土) | 8:00-10:00  | 会場10(ホテル聚楽) |
| 倫理委員会              | 6 / 23(土) | 11:45-12:45 | 会場4(408号)   |
| シンポジウム1 打ち合わせ      | 6 / 23(土) | 12:00-12:45 | 会場3(406号)   |
| 総会                 | 6 / 23(土) | 17:15-17:50 | 会場1(大会議室)   |
| 教育講演・シンポジウム2 打ち合わせ | 6 / 24(日) | 12:00-12:45 | 会場3(406号)   |
| 研究委員会(学会賞決定)       | 6 / 24(日) | 12:00-12:45 | 会場8(504号)   |





2日目(6月24日/日)

| 会場5<br>501号室                               | 会場6<br>502号室  | 会場7<br>503号室   | 会場8<br>504号室                                      | 会場9<br>3F食堂  | 会場10<br>ホテル聚楽                                      |       |
|--|---|--|---|--|--|-------|
| 8:10-9:00 I-08<br>PCFMネットの今後の活動について        |   | 8:10-9:00 I-06<br>家庭産科医                              | 8:10-9:00 I-04<br>患者医師関係から家庭医のやりがいを深めよう!          | 8:10-9:00<br>I-01<br>I-05<br>I-09<br>I-11                    | 欄外下の枠内参照   | 8:00  |
| 9:10-10:40<br>W-14<br>家庭医療実習・研修指導医の負担とやりがい | 9:10-10:40<br>W-13<br>MEET THE EXPERTS<br>~先輩家庭医に聞け!~ | 9:10-10:40<br>W-18<br>家庭医のための眼底鏡・耳鏡の使い方 正しい見方で確実な所見を | 9:10-10:40<br>W-11<br>as if 患者さんたちの「声」を体験してみませんか? | 9:10-<br><b>ポスター掲示(施設紹介、田坂メモリアル)</b><br>ランチョン以外の昼食会場休憩場として使用 | 9:10-10:40<br>W-10<br>家庭医ならではの認知症診療 - さりげない認知症診療 - | 9:00  |
|  |   | 診察器具教材展示   |   |  |  | 11:00 |
| 11:50-13:00<br>若手家庭医部会                     |   |  | 12:00-12:45<br>研究委員会<br>(学会賞決定)                   |  |  |       |
|  |   |  |   |  |  | 13:00 |
|  |   |  |   |  |  | 14:00 |
|  |   |  |   |  |  | 15:00 |
|  |   |  |   |  |  | 16:00 |
|  |   |  |   | 15:30<br>ポスター撤去  |  | 17:00 |

会場9(3F食堂)

インタレストグループ朝食配付会場(8:00より)

- I-01 患者さんに“家庭医”を知ってもらおう
- I-05 禁煙支援よろず相談!
- I-09 インターネットでカンファレンス!
- I-11 困った家族と楽しく付き合うコツ



《プログラム》

1日目 / 6月23日 (土)

ワークショップ (9:00 ~ 11:30 W-03、W-06、W-07は、11時まで)

W-01 学会発表が「楽しく!!」なるプレゼンテーションのコツ (9:00 ~ 11:30 / 会場5)

コーディネーター

佐藤 健一 (関西リハビリテーション病院)

斎藤 裕之 (東京医科大学総合診療科)

岡田 唯男 (亀田ファミリークリニック館山)

W-02 家庭医である私のプロフェッショナリズムって何だろう?

~ みんなで考える家庭医特有のプロフェッショナリズム ~ (9:00 ~ 11:30 / 会場8)

コーディネーター

宮田 靖志 (札幌医大・地域医療総合医学講座)

八木田一雄 (札幌医大・地域医療総合医学講座)

W-03 家庭医だからこそ出来る! 楽しい禁煙支援 (9:00 ~ 11:00 / 会場1)

コーディネーター

高橋 裕子 (奈良女子大学)

三浦 秀史 (禁煙マラソン)

W-04 家庭医とウイメンズ・ヘルス (9:00 ~ 11:30 / 会場7)

コーディネーター

Karl T. Rew (Department of Family Medicine, University of Michigan Health System)

Amanda J. Kaufman (Department of Family Medicine, University of Michigan Health System)

藤岡 洋介 (Department of Family Medicine, University of Michigan Health System)

佐野 潔 (American Hospital of Paris)

若林 英樹 (Marital and Family Therapy Program, University of San Diego and Collaborative Care Family Medicine Program, UCSD Family Medicine)

W-05 日常診療にNLP (神経言語プログラミング) を使おう! (9:00 ~ 11:30 / 会場6)

コーディネーター

玉城 浩巳 (まった生協診療所)

W-06 家庭医とスポーツ医学 (9:00 ~ 11:00 / 会場2)

コーディネーター

小林 裕幸 (防衛医大病院総合臨床部)

角 誠二郎 (防衛医大病院総合臨床部)

W-07 ベッドサイドの嚥下障害の診かた、関わりかた (9:00 ~ 11:00 / 会場2)

コーディネーター

平山 陽子 (王子生協病院 内科)

森岡 良介 (王子生協病院 内科)



小林 祐貴(王子生協病院 言語聴覚士)  
田中 智沙子(王子生協病院 言語聴覚士)  
佐久間 真生(王子生協病院 作業療法士)

W-08 心肺蘇生に関する事前指示(DNAR order)について(9:00~11:30/会場4)

コーディネーター

本村 和久(王子生協病院)

W-09 根拠に基づいた予防医療:現在の健診・人間ドックの問題点と変革のための方略

(9:00~11:30/会場3)

コーディネーター

北村 和也(勝川ファミリークリニック)  
斉藤 さやか(汐田総合病院)  
宮崎 景(名古屋大学医学部附属病院総合診療部)  
向原 圭(川崎幸病院)

ランチョンセミナー「プライマリケアにおけるうつ病治療と自殺予防」(12:00~12:50/会場1)

演者:大山 博史(青森県立保健大学健康科学部 教授)  
坂下 智恵(青森県立保健大学健康科学部 講師)  
司会:伴 信太郎(名古屋大学医学部附属病院総合診療部 教授)  
(旭化成ファーマ株式会社、グラクソ・スミスクライン株式会社)

一般演題(口演)(13:00~14:30)

教育研修(会場1)

座長:森 敬良、岡田 唯男(前半)  
座長:大西 弘高、亀谷 学(後半)

教育研修1 L-01 インターネットテレビ会議方式プライマリ・ケアレクチャーの内容検討

大西 幸代(札幌医科大学地域医療総合医学講座)

教育研修2 L-02 継続的な医学生 研修医 指導医関係とへき地1人診療所家庭医療研修の試み

伊左次 悟(白川村国保診療所)

教育研修3 L-03 包括的ケアのコンピテンシー(能力) 学習者は地域で何を学ぶか

西川 武彦(地域医療振興協会 揖斐郡北西部地域医療センター)

教育研修4 L-04 教えながら学ぶこと~若手家庭医による地域医療研修医受け入れの試み~

森永 太輔(みなと医療生協 みなと診療所/みなと医療生協 協立総合病院)

教育研修5 L-05 診療所における望ましい地域保健・医療研修のあり方について(続編)

~診療所スタッフへのグループインタビューから~

平山 陽子(東京ほくと医療生協 王子生協病院)



教育研修6 L-06 東京医療センター総合内科・後期研修のプログラム評価（第三報）

他科外来研修はジェネラリストの後期研修として有効か

木村 琢磨（国立病院機構東埼玉病院 総合診療科）

教育研修7 L-07 琉球大学医学部附属病院初期臨床研修病院群(RyuMIC)における診療所研修

稲福 徹也（琉球大学医学部附属病院卒後臨床研修センター）

教育研修8 L-08 家庭医療後期研修プログラムにおける小児科研修のあり方

武者 幸樹子（川崎市立多摩病院総合診療科(聖マリアンナ医科大学)）

教育研修9 L-09 川崎市立多摩病院における家庭医の小児救急診療への関わりと後期研修についての考察

大橋 博樹（川崎市立多摩病院総合診療科（聖マリアンナ医科大学））

研 究（会場2）

座長：葛西 龍樹、生坂 政臣

研究1 L-10 臨床研究初学者のためのワークショップ 家庭医の研究スキル向上を目指して

喜瀬 守人（川崎市立多摩病院総合診療科）

研究2 L-11 北部東京家庭医療学センターにおける研修医への臨床研究支援の試み

松村 真司（松村医院）

研究3 L-12 奈良家庭医療センター開設における病院スタッフのニーズ調査

中島 真知子（健生会 河合診療所）

研究4 L-13 診療所外来における研修医への患者満足度調査

高橋 賢史（出雲市民病院 / 出雲家庭医療学センター）

研究5 L-14 大福診療所における受診状況調査

朝倉 健太郎（健生会 大福診療所）

研究6 L-15 プライマリ・ケア診療所における2型糖尿病患者の1年間追跡調査

田頭 弘子（鉄蕉会 亀田ファミリークリニック館山）

研究7 L-16 家庭医による断酒会院内例会の取り組み

西本 広樹（姫路医療生活協同組合 共立病院）

在宅・へき地・地域（会場6、7）

座長：三瀬 順一、雨森 正記

在宅1 L-17 「受診に至った経緯」と「死に対する心構え・受容の有無」による四分表を用いた

在宅患者分類・分析の試み

内山 富士雄（内山クリニック）



在宅2 L-18 在宅患者さんの事前指示書に関する意識調査

寺本 敬一(京都保健会 たんご協立診療所)

へき地1 L-19 平戸における長崎大学へき地病院再生支援・教育機構の取り組み

中桶 了太(長崎大学医学部・歯学部附属病院 へき地病院再生支援・教育機構)

へき地2 L-20 カナダのへき地医療に学ぶもの

白井 亮(長崎大学医学部・歯学部附属病院 へき地病院再生支援・教育機構)

へき地3 L-21 へき地診療所と中核病院一般内科外来における、患者が外来医に求める条件の違いについての検討

船越 樹(社)地域医療振興協会)

地域1 L-22 奈義町における肺炎球菌ワクチン公費助成の効果 国保データを用いた検討

松下 明(奈義ファミリークリニック)

地域2 L-23 みんなでやってみた 地域診断

高松 典子(尼崎医療生協 本田診療所)

#### 開会あいさつ、会長講演「三瀬村で学んだこと」(14:40～15:10/会場1)

演者：白浜 雅司(佐賀市立国民健康保険三瀬診療所)

司会：山田 隆司(社団法人 地域医療振興協会)

#### シンポジウム1「家庭医のやりがい」(15:10～17:10/会場1)

～いろいろな年代、環境で働く家庭医に、それぞれの仕事の楽しみと課題を語っていただきます

座長：藤沼 康樹(日本生協連医療部会家庭医療学開発センター・生協浮間診療所)

竹村 洋典(三重大学医学部附属病院総合診療部 准教授)

開業医のやりがいって何だろう

シンポジスト：内山 富士雄(内山クリニック院長/PCFMネット事務局)

ジェネラリストのやりがい 家庭医と総合診療医の視点から

シンポジスト：生坂 政臣(千葉大学医学部附属病院総合診療部)

女性家庭医のやりがい 仕事もプライベートライフもあきらめない

シンポジスト：西村 真紀(川崎医療生協 あさお診療所)

幅広く軽やかに、そしてこくのある深さ

シンポジスト：草場 鉄周(北海道家庭医療学センター)

総合病院で家庭医はやりがいを感ずることが出来るのか？

シンポジスト：大橋 博樹(川崎市立多摩病院総合診療科)



総 会 (17:15 ~ 17:50 / 会場1)

レセプション兼ポスターセッション (18:00 ~ 19:00 / 会場2、9)

研究発表 (ポスター) (会場2 405号室)

研究発表 1 P-01 患者ニーズにもとづいた診療所所長研修

志村 直子 (御坂共立診療所)

研究発表 2 P-02 OCSIAの医療面接学習 ~医療面接学習における評価方法の検討~

湯口 賢 (岡山大学医学部医学科4年)

研究発表 3 P-03 医学生の進路についての興味・考えに関する調査 ~家庭医療を中心に考察~

田中 努 (滋賀医科大学総合診療部)

研究発表 4 P-04 総合病院の外来で髄膜炎を疑って髄液検査を施行した70症例の検討

榎筈 永晴 (川崎市立多摩病院 総合診療科)

研究発表 5 P-05 産科医との協力体制強化による家庭医妊婦健診継続率の増加

西岡 洋右 (亀田ファミリークリニック館山)

研究発表 6 P-06 ポートフォリオ評価は初期研修医に何をもたらしたか

福士 元春 ((社)地域医療振興協会 地域医療研修センター)

研究発表 7 P-07 総合診療科外来における非常勤医師の活動に関する検討

小野(中村)昭子 (医薬品医療機器総合機構 (PMDA) 新薬審査第一部)

研究発表 8 P-08 地域一般小規模病院における高齢者の身体障害認定の現況

浮田 昭彦 (盛岡医療生協川久保病院)

研究発表 9 P-09 家庭における健康問題と家庭医療 ~私たちが考える家庭医療~

竹中 裕昭 (竹中医院)

研究発表10 P-10 ウィメンズヘルス研修報告と研修アウトカムについての提案

川尻 英子 (北中城若松病院)

事例検討 (ポスター) (会場2 404号室)

事例検討 1 P-11 当院における通所介護デイサービスで認知症症状が極めて改善した一例

渡邊 正明 (宮崎大学医学部機能制御学講座腫瘍生化学分野)

事例検討 2 P-12 構造主義医療のアプローチによる新しい症例提示

名郷 直樹 (社団法人地域医療振興協会地域医療研修センター)

事例検討 3 P-13 初回の診療でどの程度まで家族の問題を聴取し介入することが適切か

家庭医は、患者の重大なライフイベントに対してどのように介入することが適切か

伊達 純 (城南福祉医療協会大田病院内科)



施設紹介（ポスター）（会場9）

- S-01 筑波大学附属病院 総合医コース 後期研修プログラム
- S-02 河北総合病院 / 東京・杉並家庭医療学センター 家庭医後期研修プログラム
- S-03 出雲市民病院家庭医療後期研修プログラム
- S-04 医療生協家庭医療学レジデンシー・東京
- S-05 東京医科大学 総合診療科 後期研修プログラム「家庭医養成コース」
- S-06 青森県民主医療機関連合会 家庭医後期研修プログラム
- S-07 医療法人社団 カレス アライアンス・北海道家庭医療学センター
- S-08 山梨勤労者医療協会家庭医療プログラム
- S-09 奈義ファミリークリニック・津山中央病院家庭医療後期研修プログラム
- S-10 研修プログラム（日本家庭医療学会申請中）王子生協病院 家庭医プログラム「ほくと」
- S-11 姫路医療生活協同組合共立病院での家庭医養成の取り組み
- S-12 長崎平戸・北松家庭医療学コース
- S-13 亀田ファミリークリニック館山 家庭医後期専門研修プログラム
- S-14 長野厚生連佐久総合病院 地域診療所コース
- S-16 兵庫民医連 家庭医療後期研修プログラム 阪神コース
- S-17 川崎市立多摩病院における家庭医療後期研修
- S-18 自治医科大学 地域医療後期研修プログラム
- S-19 みさと健和病院の初期研修プログラム
- S-20 勤医協中央病院 総合診療部 施設紹介
- S-21 福井大学医学部 総合診療部
- S-22 みさと健和病院・柳原病院 家庭医療学後期研修プログラム
- S-23 NPO法人 北海道プライマリ・ケアネットワーク後期研修プログラム「ニポポ」
- S-24 京都家庭医療学センター後期研修プログラム
- S-25 福島県立医科大学・家庭医療学専門医コース
- S-26 三重大学 家庭医療学プログラム
- S-27 船橋二和病院 / ふさのくに家庭医療センター 家庭医・診療所シニア研修プログラム
- S-28 （社）地域医療振興協会 シニアプログラム「地域医療のススメ」

ナイトセッション（19:00～20:30）

- N-01 「診療所で担当すべき診療内容 必要な診療能力・望ましい連携とは」  
診療所で行なわれている診療内容 ～へき地・離島診療所調査から～（19:00～20:30 / 会場5）  
コーディネーター  
今道 英秋（自治医科大学大学院 医学研究科 地域医療学系）
- N-02 家庭医は本当に役立つのか～医療経済学の視点から（19:00～20:30 / 会場1）  
コーディネーター  
守屋 章成（社団法人 地域医療振興協会）  
後藤 励（甲南大学経済学部・医師）
- N-03 “使える”家族アプローチをめざして ～理論モデルと今後の展開（19:00～20:30 / 会場8）  
コーディネーター  
竹中 裕昭（竹中医院）  
鈴木 富雄（名古屋大学医学部附属病院総合診療部）



---

## 第22回 日本家庭医療学会 学術集会・総会

---

伊達 純（大田病院内科）  
草場 鉄周（北海道家庭医療学センター）

N-04 シンポジウム：これからの家庭医療と総合診療 - 私達が望む未来のプライマリ・ケアとは？ -  
（19:00～20:30 / 会場6）

コーディネーター

若手家庭医部会  
森 敬良（姫路医療生活協同組合 共立病院）  
齊藤 裕之（東京医科大学 総合診療科）

シンポジスト

川島 篤志（市立堺病院 総合内科）  
川尻 宏昭（名古屋大学医学部附属病院 地域医療センター）  
木村 琢磨（国立病院機構 東埼玉病院 総合診療科）

N-05 医師の配偶者・家族のためのワークショップ（19:00～20:30 / 会場4）

コーディネーター

武田 裕子（東京大学医学教育国際協力研究センター）  
早野 恵子（熊本大学医学部附属病院総合診療部）  
西村 真紀（川崎医療生協・あさお診療所）  
大野 每子（唐津市民病院きたはた）

N-06 診療所での教育の工夫 こうしてみたらよかった！（19:00～20:30 / 会場3）

コーディネーター

藤原 靖士（奈良市立月ヶ瀬診療所、PCFMネット元代表）  
大滝 純司（東京医大総合診療科）

2日目 / 6月24日（日）

インタレストグループ（8:10～9:00）

I-01 患者さんに“家庭医”を知ってもらおう（8:10～9:00 / 会場9）

コーディネーター

鎌田 昌彦（プリメド社）  
森 敬良（姫路医療生活協同組合 共立病院）  
飛松 正樹（三重県立一志病院）

I-02 「地域・コミュニティをケアする」ためのガイドをつくりたい！（8:10～9:00 / 会場3）

コーディネーター

山田 康介（医療法人 社団 カレス アライアンス・北海道家庭医療学センター）  
中川 貴史（医療法人 社団 カレス アライアンス・北海道家庭医療学センター）  
泉 京子（医療法人 社団 カレス アライアンス・北海道家庭医療学センター）





I-03 家庭医の進路相談 (8:10～9:00 / 会場4)

コーディネーター

大滝 純司 (東京医科大学)  
亀井 三博 (亀井内科・呼吸器科)  
前野 哲博 (筑波大学)

I-04 患者医師関係から家庭医のやりがいを深めよう! (8:10～9:00 / 会場8)

コーディネーター

八藤 英典 (医療法人 社団 カレス アライアンス 北海道家庭医療学センター 東室蘭サテライトクリニック 家庭医療科)  
草場 鉄周 (医療法人 社団 カレス アライアンス 北海道家庭医療学センター 本輪西サテライトクリニック 家庭医療科)  
細田 俊樹 (茂原機能クリニック 家庭医診療科)

I-05 禁煙支援よろず相談! (8:10～9:00 / 会場9)

コーディネーター

三浦 秀史 (禁煙マラソン)  
高橋 裕子 (奈良女子大学)

I-06 家庭産科医 (8:10～9:00 / 会場7)

コーディネーター

Karl T. Rew (Department of Family Medicine, University of Michigan Health System)  
Amanda J. Kaufman (Department of Family Medicine, University of Michigan Health System)  
藤岡 洋介 (Department of Family Medicine, University of Michigan Health System)  
佐野 潔 (American Hospital of Paris)  
若林 英樹 (Marital and Family Therapy Program, University of San Diego and Collaborative Care Family Medicine Program, UCSD Family Medicine)

I-07 臨床現場で役に立つかわからないEBM講座

: 構造主義医療のアプローチによるEvidence-practice gapの分析 (8:10～9:00 / 会場2)

コーディネーター

名郷 直樹 (社団法人地域医療振興協会地域医療研修センター)  
桐ヶ谷 大淳 (田子診療所)

I-08 PCFMネットの今後の活動について (8:10～9:00 / 会場5)

コーディネーター

安田 英己 (安田内科医院、PCFMネット現代表)  
内山 富士雄 (内山クリニック、PCFMネット事務局)

I-09 インターネットでカンファレンス! (8:10～9:00 / 会場9)

コーディネーター

森崎 龍郎 (札幌医科大学医学部地域医療総合医学講座)  
木村 眞司 (松前町立松前病院)

I-10 住み慣れた家で死ぬということ ~在宅での看取りのサポート~ (8:10～9:00 / 会場2)

コーディネーター

桜井 隆 (さくらクリニック)



I-11 困った家族と楽しく付き合うコツ (8:10 ~ 9:00 / 会場9)

コーディネーター

松下 明 (奈義ファミリークリニック)

ワークショップ (9:10 ~ 10:40)

W-10 家庭医ならではの認知症診療 さりげない認知症診療 (9:10 ~ 10:40 / 会場10)

コーディネーター

八森 淳 ((社) 地域医療振興協会 地域医療研修センター)

船越 樹 ((社) 地域医療振興協会 地域医療研修センター)

福土 元春 ((社) 地域医療振興協会 地域医療研修センター)

名郷 直樹 ((社) 地域医療振興協会 地域医療研修センター)

W-11 as if 患者さんたちの‘声’を体験してみませんか? (9:10 ~ 10:40 / 会場8)

コーディネーター

後藤 道子 (三重大学医学系大学院家庭医療学)

横谷 省治 (三重大学医学部附属病院総合診療部)

飛松 正樹 (三重県立一志病院)

W-12 プラクティカルEBM ~ 統計数学や論文読解からの解放 (9:10 ~ 10:40 / 会場2)

コーディネーター

古谷 伸之 (東京慈恵会医科大学附属柏病院総合診療部)

柳内 秀勝 (東京慈恵会医科大学附属柏病院総合診療部)

伊藤 公美恵 (東京慈恵会医科大学附属柏病院総合診療部)

江村 正 (佐賀医科大学臨床研修センター)

W-13 MEET THE EXPERTS ~ 先輩家庭医に聞け! ~ (9:10 ~ 10:40 / 会場6)

コーディネーター

森永 康平 (日本家庭医療学会 学生・研修医部会)

W-14 家庭医療実習・研修指導医の負担とやりがい (9:10 ~ 10:40 / 会場5)

コーディネーター

三ツ浪 健一 (滋賀医科大学医学部附属病院総合診療部)

森村 美奈 (大阪市立大学大学院医学研究科総合診療センター)

溝岡 雅文 (広島大学医学部附属病院総合診療科)

W-15 家庭医療における高齢者外来診療の理論と方法 (9:10 ~ 10:40 / 会場1)

コーディネーター

藤沼 康樹 (日生協医療部会家庭医療学開発センター)

横林 賢一 (医療生協家庭医療学レジデンスー東京)

斎木 啓子 (医療生協家庭医療学レジデンスー東京)

渡邊 隆将 (医療生協家庭医療学レジデンスー東京)



W-16 発熱 コモン エマージェンシー 感冒 or not (9:10~10:40/会場2)

コーディネーター

林 寛之(福井県立病院ER)

W-17 家庭医療研修医を上手に評価するために(9:10~10:40/会場4)

コーディネーター

草場 鉄周(北海道家庭医療学センター)

山田 康介(北海道家庭医療学センター)

岡田 唯男(亀田ファミリークリニック館山)

雨森 正記(弓削メディカルクリニック)

W-18 家庭医のための眼底鏡・耳鏡の使い方 正しい見方で確実な所見を (9:10~10:40/会場7)

コーディネーター

鈴木 富雄(名古屋大学医学部附属病院総合診療部)

松本 拓也(名古屋大学医学部附属病院総合診療部)

錦織 麻紀子(名古屋大学医学部附属病院総合診療部)

菊川 誠(親仁会米の山病院総合内科)

W-19 家庭医の地域貢献 患者を診る 地域も診る(9:10~10:40/会場3)

コーディネーター

長 純一(佐久総合病院地域医療部地域診療所科・小海分院)

高橋 昭彦(ひばりクリニック院長(宇都宮市))

#### 学会賞対象演題発表(10:50~11:45/会場1)

G-01 在宅診療チームによる遺族訪問(多職種による遺族訪問とカンファレンス)の取り組み

坂戸 慶一郎(青森民医連家庭医療学センター)

G-02 家庭医療学におけるチームアプローチの重要性と日本における可能性

田中 夏貴(関西医科大学附属枚方病院総合診療科)

G-03 新規往診患者に関する検討 ~往診患者の現況から往診医に求められるものを探る~

日下 圭(みさと健和病院)

G-04 若手診療所医師が悩んだ疾患(皮膚疾患を中心に)

~インターネットコミュニケーションツールを用いた5年間のコンサルトからみえてきたこと

山川 宗一郎(沖縄県立中部病院)

G-05 総合外来の発熱患者における病診連携実態調査

高橋 知子(千葉大学医学部附属病院総合診療部)



ランチョンセミナー「COPDの早期発見・治療」(12:00～12:50/会場1)

演者：福地義之助(順天堂大学医学部呼吸器内科 客員教授)  
司会：津田 司(三重大学大学院 医学系研究科 家庭医療学 教授)  
(三菱ウェルファーマ株式会社、アストラゼネカ株式会社)

教育講演「専門家として学び育つこと 医師教育と教師教育」(13:00～13:50/会場1)

演者：佐藤 学(東京大学大学院教育学研究科)  
司会：大滝 純司(東京医大総合診療科)

特別賞贈呈式(13:50～14:00/会場1)

シンポジウム2「家庭医に望むこと」(14:00～16:00/会場1)

～専門医、看護師、行政、患者市民の立場から家庭医へ望むことを語っていただきます

座長：白浜 雅司(佐賀市立国民健康保険三瀬診療所)  
山田 隆司(社団法人 地域医療振興協会)

心血管病の管理と家庭医の役割

シンポジスト：木原 康樹(神戸市立中央市民病院循環器内科)

家庭医に望むこと 精神科医の立場から

シンポジスト：宮岡 等(北里大学精神科教授、北里大学東病院副院長)

在宅看護師の立場から家庭医に望むこと

シンポジスト：中野 博美(伊豆保健医療センター看護部)

家庭医に望むこと 行政の立場から

シンポジスト：佐藤 敏信(厚生労働省医政局指導課)

家庭医に望むこと

シンポジスト：辻本 好子(NPO法人ささえあい医療人権センターCOML)

後期研修プログラムの認定証授与式

学会賞発表表彰

閉会の挨拶

(16:00～16:30/会場1)

## 平成18年度 日本家庭医療学会 研究補助金 選考結果のお知らせ

平成18年度 日本家庭医療学会 研究補助金交付申請につきまして、今回は4名の応募がありました。  
研究補助金交付者の選考につきまして、いろいろな角度から慎重に審議を重ねました結果、下記の3名に決定いたしましたのでお知らせいたします。

### 「地域医療実習での振り返りシート記載がもたらす家族・地域問題への気づきに関する研究」

八木田一雄 様（札幌医科大学医学部地域医療総合医学講座）

### 「家庭医が必要と考えるリハビリテーションの臨床能力に関する質的研究」

若林 秀隆 様（済生会横浜市南部病院）

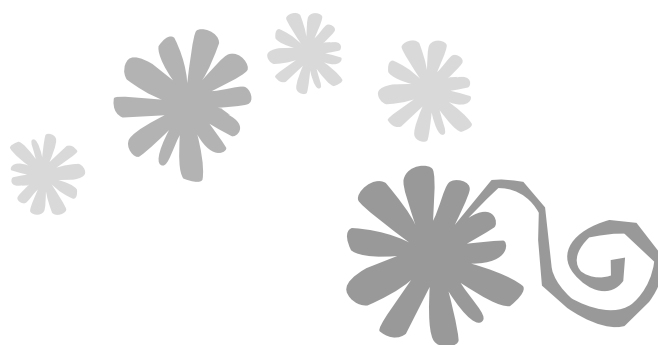
### 「倦怠感を訴える外来受診者における睡眠時無呼吸症候群の有病率」

石丸 直人 様（筑波メディカルセンター病院）

## 平成19年度 日本家庭医療学会認定 後期研修プログラムの本認定について

平成19年度 後期研修プログラムの本認定申請は、期日までに67施設からの申請がございました。  
本認定作業は、当学会役員によるプログラム評価の結果を踏まえ、6月9日の審査会にて決定いたします。

また、第22回日本家庭医療学会学術集会の会期中に、平成19年度後期研修プログラム本認定の認定証授与式を行います。（日時：6月24日 16時～ / 会場：損保会館）





## 学ぶ環境の大切さ

北海道家庭医療学センター・本  
輪西サテライトクリニック  
草場鉄周

北海道家庭医療学センターは平成8年の設立から11年が経過した。一口に11年と言っても、その中には本当に色々なことがあって、よくぞここまで続いてきたなと感じることも少なくない。私自身、平成11年から所属し8年間の経験の中で感じるのは、家庭医養成にエネルギーを割くことがもたらす大きなメリットと、少なからず周囲が被るデメリットのバランスをとり続けることの難しさである。今回は、当センターの診療所研修の紹介ではなく、そうした診療所研修の環境作りの経験について、つれづれなるままに筆を執りたい。ちなみに、当センターの研修について興味のある方は、最新の家庭医療学会誌に紹介されているのでご覧いただきたい。

私が診療所での研修を開始したのは8年前。病棟研修の合間を縫って半日、本輪西サテライトクリニックにやって来て、外来患者を4~5名、訪問患者を1~2名診察させてもらっていた。当初、患者情報は過去のカルテ記載を参照するしかなく、患者の全体像を把握するのに大変手こずった。そのうち、研修医が自発的にサマリーシートを作成し、そうした苦労はなくなった。指導についても、当初は全くの手探りで、いわゆる5つのマイクロスキルのような枠組みはなく、どちらかというと先輩研修医から一方的に訂正されてあまり議論の余地がなかった気がする。私自身も特に疑問なく、「ああ、そういうものだな」と思うことが多かったが、時には「そんな馬鹿な」と先輩に食って掛かることもあり、おそらく嫌な研修医だったのだろうと苦笑する。

研修医の間での上下の関係も緩やかで、家族のような賑やかな雰囲気だった。当時、日鋼記念病院内でも「家庭医って何??」という雰囲気が強く、各科の専門医と衝突するレジデントも絶えなかった。おそらく、こうした診療所研修は家庭医を目指す自分のアイデンティティを醸成する場として、貴重な役割を果たしていたのだろう。ともかく、私は診療所での研修が楽し

くてたまらなかった。

それから7年が過ぎ、自分が学んだ診療所で所長として診療・教育に携わる中、今だから聞けることを気心の知れた患者さんにたずねてみる。「研修医の先生に診てもらうの心配じゃないですか？」ある人曰く、「うーん、そりゃそうだけど。先生方もそうやって成長するんでしょう。私らも何やるにしてもまずは見習いだもんね。その代わり、ちゃんと先生、教えてあげてよ！」こんな言葉を聞くと元気が湧いてくる。

その一方、たまに研修医が患者さんから厳しい言葉をもたらすこともある。「おい、おまえは本当に医者なのか?」「どうせ上の先生にお話するのだから、あなたには特に話すことはありません」研修医ががっかりするのはもちろん、そうした思いをさせてしまったことに指導医として肩を落としてしまう。

また、地元町内会の集まりで年に1回講演会を実施しているが、そこでいつもお話しするのが、普段から研修医の教育に協力してもらっている事への感謝、そして、ここで学んだ者たちが家庭医として力強く活躍している報告である。その時に、会場の皆さんが嬉しそうに笑顔で拍手をしてくださる姿を見ると、じーんと熱いものがこみ上げてくるのをいつも感じる。

地域で働く家庭医は一人で育つのではなく、指導医によって育てられるのでもなく、志を同じくする仲間との連帯感の中、住民・患者さんに暖かく包まれてこそ育っていくのだと思う。そして、こればかりはどんなに賢く腕の立つ家庭医が教育技法を駆使しながら緻密にプログラムを組み立てたとしても、そう簡単には用意できないと思う。学習するコミュニティー、そして医療を提供する住民・患者の包容力と理解。これこそが、医療訴訟と無縁の安全な研修環境で、のびのびと家庭医が育っていく決め手のような気がしてならない。



## 生涯教育コーナー



JAMAの Rational Clinical Examination シリーズをご存知でしょうか？身体診察のEBMをまとめたシリーズとして有名ですが、私たちのふとした疑問にさらりと答えてくれます。

- ・乳房の診察はどうすれば最もよく腫瘤を見つけられるか？
- ・髄膜炎かどうかを見分けるにはどうすればいい？
- ・インフルエンザかどうかを見分ける方法は？
- ・小児の脱水を効率よく診断するには？
- ・パーキンソン病を疑ったらどの所見を探せばいい？

JAMAのHPにアクセスして登録すると、無料でゲスト会員になります。

6ヶ月を経過した論文のPDFをダウンロードできますのでこのシリーズをほとんどすべて無料で読めるのです（購読していなくても！）

今すぐアクセスしてみませんか？

[http://jama.ama-assn.org/cgi/collection/rational\\_clinical\\_exam](http://jama.ama-assn.org/cgi/collection/rational_clinical_exam)

全文を読むのはちょっとキツイという方も多いと思いますが、最初のページのアブストラクトと図と表だけ読めば80%以上の内容は理解できます（重要な20%を読めば80%を得るという法則知ってます？）

ちなみにパーキンソンの論文には亀田の岡田先生も登場しています。

すごいですね！ぜひ皆さんでチェックしてみてください。

# 事務局からのお知らせ



## メーリングリストの加入について

メーリングリストに加入してコミュニケーションの輪を広げよう！

現在、約800名の会員が参加しています。希望者は以下の要領で加入してください。

### 参加資格

日本家庭医療学会会員に限ります。

### 目的

メーリングリストは、加入者でディスカッショングループを作り、あるテーマについて議論したり、最新情報を提供したりするためのものです。家庭医療学会の発展のために利用していただけただけなら幸いです。

### 禁止事項

メールにファイルを添付しないでください（ウイルス対策）。個人情報をこのリストの中に流さないでください（自己紹介は可）。ごくプライベートなやりとりを載せないでください。

### 加入方法

学会のホームページの「各種届出」のページから申し込むか、事務局宛に次の事項を記入の上、E-mailで申し込んでください。

会員番号（学会からの郵便物の宛名ラベルに記載されています）

氏名

勤務先・学校名

メールアドレス

会員であることを確認した上で登録いたします。

事務局メールアドレス：E-mail：jafm@a-youme.jp

## 入会手続について

当学会に関心のある方をお誘いください。学生会員も大歓迎です。入会手続については、学会のホームページの「入会案内」をご覧ください。事務局までお問い合わせください。

## 会費納入のお願い

会員の皆様の中で、会費の納入をお忘れになっている方はいらっしゃいませんか。ご確認の上、未納の方は早急に納入をお願いいたします。2年間滞納されますと、自動的に退会扱いとなりますのでご注意ください。ご不明な点は事務局へお問い合わせください。

## 異動届けをしてください

就職、転勤、転居などで異動を生じた場合はなるべく早く異動届をしてください。異動届は学会のホームページの「各種届出」のページからできます。または事務局宛にE-mail、FAX、郵便などでお知らせください。

## 編集後記

家庭医療学会の後期研修プログラム本認定がいよいよはじまります。

今回の会報でも若手医師たちの力をしっかりと感じていただけたのではないのでしょうか？将来の日本の家庭医療を担う世代を育てる仕事はとても重要で、この数年間が正念場となります。

ぜひ、関連する会合に参加してよりよいものにしていきましょう！

奈義ファミリークリニック 松下明

### 発行所：

特定非営利活動法人 日本家庭医療学会事務局

### 広報委員：

松下 明（会報担当理事）、三瀬順一

〒550-0003 大阪市西区京町堀1-12-14 天真ビル507号  
あゆみコーポレーション内

TEL 06-6449-7760 / FAX 06-6447-0900

E-mail：jafm@a-youme.jp

ホームページ：http://jafm.org/